



PRESS RELEASE

For immediate release
pr@niseiweek.org

For more information:
Diane Tanaka 310.962.2698

78th ANNUAL NISEI WEEK JAPANESE FESTIVAL

EIGHT PIONEER SPIRIT HONOREES TO BE FETED ON AUGUST 15

LOS ANGELES – July 15, 2018 – The Nisei Week Foundation is excited to announce the 2018 Nisei Week Pioneer Spirit honorees who will be recognized during the 78th annual Nisei Week Japanese Festival (August 11-19) in Los Angeles' Little Tokyo. The eight Pioneer Spirit Award recipients make up some of the most active and dedicated leaders of the greater Los Angeles Japanese American community. They will be honored at a special 2018 Pioneer Spirit Luncheon to be held at the Doubletree by Hilton Hotel (120 S. Los Angeles Street, Los Angeles) on Wednesday, August 15 at 12 noon. Tickets are \$65 per person or \$650 per table of 10 and can be obtained by calling the Nisei Week Foundation office at 213.687.7193 or by emailing office@niseiweek.org.

The 2018 Nisei Week Pioneer Spirit Honorees are:

荒瀬慎吾氏

荒瀬慎吾氏は1929年1月5日ロスアンゼルス生まれ。彼が4歳の時に家族と共に日本、山口に帰国、18歳の時にカリフォルニアに戻った。そして、1950年代、コリアン・ワーの際に米軍海兵隊の軍役に服した。

1957年UCLAの物理学部を卒業、1988年にゼロックス社パロアルト研究部の研究員として引退するまで著名な企業に勤め、パソコン、レーザープリンター等の開発のパイオニアとして活躍、時代のワードプロセッシングの最先端の特許も保持している。

そのような輝かしい経歴に加えて、荒瀬氏は日系、日系米人のコミュニティーの数多くの団体に所属し、彼の技術を生かしつつ、リーダーとして活躍してきた。

荒瀬氏は2014年からパイオニアセンターの理事として、そして2016年にはバイス・プレジデントとして活躍、また2013年からはボランティア・インストラクターとしてコンピュータークラスを指導し、マイクロソフト・ワード、ウィンドウズ10を教え、またセンターの四半期報「おしらせ」のとりまとめ、発刊を担当、センターのウェブサイト作成の支援、各種セミナーのパワーポイント・プレゼンテーションの作成等、センターのすべてのIT関連の機器のメンテ、ボランティアへの指導を行っている。また、趣味として写真クラスに参加し、写真撮影を楽しんでいる。現在、センターの50周年の記念本の取りまとめ責任者でもある。

荒瀬氏は当地宮崎県人会の創始者の一人でもあり、1977年以来活発に活動をしており、会の副会長、トレジュラー、記録写真の撮影、ウェブサイトの維持などを行っている。

1947年からは、荒瀬氏はサンゲブルのミッション・バレー・フリー・メソジスト教会にて活発な活動を行っており、指導者の一人として会の月報の発行を行っている。そして、少なくとも月一回の朝のサービスの進行役を行っているが、その活動は地元から地区へ、そして中枢の理事会他の要職を務めている。そして、現在ではキリスト教ビジネスマン定期報を刊行し南加チャーチ・フェデレーションの元会長でもある。

荒瀬氏は5年前に再婚したチェコさんと暮らしている。

福岡健二氏

福岡健二氏は1946年に熊本にて父ミツタロウ氏、母セツさんの次男として生まれ、若干16歳で名古屋に、その後東京に上京して働きながら家族を支えた。そして東京で青少年を対象としたプログラムに見事合格し、ハワイ、ロサンゼルスを訪れた。この時の短い滞留経験とは言え後々に福岡氏が育む渡米への夢のきっかけとなった。

1974年、産業能率大学の在学中、福岡氏は海外・ロサンゼルスでの勉学を深める事を志し現地の学校に入学した。そして4年後に小林ハツミさんと結婚した。引退をするまで、福岡氏はロサンゼルスの自宅の庭園の美化に力を入れ、造園家、庭園士として腕をふるう毎日を送った。なお、福岡氏は2001年に米国市民権を取得した。

1970年代から現在にいたる40年以上、福岡氏は活発にコミュニティー、非営利団体等への奉仕、支援活動を行い続けた。南加県人会協議会の会長、熊本県人会の会長、大正クラブの会長など、各種の日系組織の要職を務め、2013年には大日本農会から名誉ある緑白綬有功章、そして熊本県からは功労賞を受賞した。

特に福岡氏の傑出した奉仕活動としては2016年4月16日に熊本地域を襲ったマグニチュード7.0の大地震の際に、この非常事態を聴くや否や県人会協議会を先頭に熊本地震救援資金募金活動を立ち上げ、その後11か月間弛まぬ昼夜の努力で、各種イベントを駆け廻り、13万ドル以上の募金を集めた。福岡氏の特に特記すべき事は何百件もの募金を受け取ると、そのすべての方、850通を超える感謝の手紙と受領書を丁寧に送った。当初の募金額の100%は熊本県の特別救済基金に送られ、さらに残った基金は在ロサンゼルス総領事館を介してこれも熊本に送られた。

今日、福岡氏は日本語圏コミュニティー、各種組織に参加、その奉仕活動を続け、この福岡氏の貢献は今回の受賞にふさわしいものである。現在彼には奥さんのハツミさんと二人のお嬢さん、エミさんとアキコさんがいらっしゃる。

堀尾誠治氏

堀尾誠治氏は1937年に熊本県生まれ。東京農業大学で農業を学んだ後、1959年に卒業。卒業後、農業実習としてアメリカに渡り、オレンジ郡で働いた。後、彼は州の請負業者のライセンスを受けた後、自身の造園会社を設立した。

堀尾氏はサンフェルナンド・バレーの造園業・庭園業協会会員として、また南加庭園業連盟の50年にわたる会員として、1984年、1985年には連盟の会長も務めた。

この間、堀尾氏は多忙な時間を割いてでも連盟の会員の支援をし、日系アメリカ人の多いこの組織の中核となり活躍した。特にコミュニティーの為の貢献を第一とし、地元日米文化会館野口プラザに歴史的なグレープフルーツの樹木の移設を行ったり、セプルベダ・ダム周辺の松林の手入れ、ローズ・ボウル競技場の毎年恒例のバラ園の手入れ等もかかさず行っている。

また、リンカーン・ハイツにある敬老ホームの庭の清掃も長年行っておるが、これらはすべて、多忙で追われた一週間の後のしばしの休みの日曜日を返上して奉仕で行ってきたものである。

庭園業連盟ではコープと呼ばれる協同組合組織が運営されていたが、共同購買による庭園業務資機材の共同購買による支援を行うのが目的であった。しかし、1985年にその倉庫が火災に会い大損害を起こした事がある。そして、その際にも、堀尾氏が中心になって、その復旧に奔走し、保険会社との交渉、各種業者との折衝等をおこなった。まさに、堀尾氏のコミュニティー・スピリットと後続の庭園業に携わる者たちへの思いを前面に、この苦難を乗り越えることができた。

1986年にはロサンゼルス市では庭園業者が使用するガソリン・ブローアの廃止案が提示された際にも堀尾氏は同調者を連れて市議会の公聴会の議場に直接乗り込んで、市議会で直訴をしたのも有名な話である。堀尾氏はその時の話をするときには当時を思い出し、いかに皆が力を合わせて戦ったかを熱い言葉で話す。

堀尾氏は妻で54年連れ添ったトシコさんと過ごしているが、成人になった3人の子供、7人の孫に恵まれ、静かな暮らしの傍ら、現在でも庭園業連盟の理事として、歳末助け合い運動を率先して行い、また高齢者を守る会の理事として忙しく活動している。

アーサー・タケシ・イシイ氏

アーサー・タケシ・イシイ氏はハートマウンテン収容所の二世の親の次男として1944年にシカゴで生まれた。そしてロサンゼルス市の西南（セイナン）地区で育ち、メリノール小学校、バージル中学、ベルモント高校を経て1962年、ちょうどベトナム戦争の初期、空軍に入隊した。

日本駐屯中に出会ったキョウコさんとの間にラッセル・タカシ氏、クリスティーン・ナミコさんの二人の子供をもうけ、名誉除隊後、1969年イエロー・ブラザーフッド団体の創立者の

一人となった。この団体は当時アジア系アメリカ人の若者の中で生きる道を見失い、ギャング、麻薬に手を出しつつあった若者を「同胞」として守り更生を応戦する組織である。

イエロー・ブラザーフッドは路上をさまよう彼らに手をさしのべ、宿題の支援、スポーツ活動への勧誘、教科書では教わらないコミュニティの歴史等々、同胞としてのカウンセリングを行った。1975年にこの組織を解体後10年、アジア系アメリカ人青少年によるバスケット・ボール・チームとして再組織、この経緯は2003年に中村タダシ氏により短編ドキュメンタリーとなり紹介された。

その頃、イシイ氏は、家族の成長とともに仕事としての印刷関連の仕事を始めた。勤め先は世界でも有数の印刷書式製造会社、ムーア・ビジネス・フォーム社で、その企業内でもイシイ氏は二年間つづけて年間最優秀セールスマンの表彰を受け、北米での日系人のさらなる雇用機会の開拓に努めた。

10年間の同社での勤務を経て、1980年、長年夢見た独立を果たした。そのアライアンス・アートフォーム社は商業印刷の会社として販促品の印刷、シルクスクリーン、エンブroideryなどを中心に今日も継続して経営している。

イシイ氏は格闘家としても有名で、10歳でハリウッド有数の武道家、菊池タケシ氏、エミ・フランク・アート氏、ワタヌキ・フランク氏、ジーン・レベル氏に学び、その後、チャイナ・タウン・カンフークラブにてランディー・ウィリアムス師夫、天理空手・五十流空手ではガイ・クロセ先生のもとで、さらに沖縄少林寺空手はオータ・エイハチ、ナガミネ・タカヨシ両氏のもとで学んだ。

イシイ氏は1990年沖縄に本拠を置く世界的な組織、松林松林流（WMKA）の小東京支部を開設し、現在六段ならびに錬氏の資格を保有する。

イシイ氏は長年二世ウィークの理事を務め、同時に日系ゲームスの総支配人、日系空手部の創始者の一人として、日系ゲームス武道トーナメントを開催、後進の育成につとめている。もちろん、可愛いお孫さん三人、ミヤ、アミ、ライアンの優しいお爺さんであることも付け加えておこう。

ドン・ミヤダ氏

ドン・S・ミヤダ氏は1925年日本からの移民の両親のもと、カリフォルニア州オーシャンサイドに生まれた。サン・ホワキン小学校を卒業した後、ニューポート・ハーバー高校に進学。真珠湾攻撃が起きた時は3年生であった。両親とともにそれまで暮らした家からアリゾナ州ポストンの強制収容所に送られ、そこでニューポート・ハーバー高校の卒業証書を受け取った。米国市民権を持つミヤダ氏も日本人の祖先を持つアメリカ人というだけで強制収容されたのであった。

強制収容所ではキャンプ内に食料などを配達する運転手の仕事に就いた。収容所を出て、アイダホ州プレストンの季節農業に従事し、1944年にミシガン州デトロイトの国防産業関連の工場で働くようになった。

1944年4月、彼の徴兵資格が4C（敵性外国人）から1A（徴兵可）に変わったことから、ミヤダ氏は陸軍に徴兵され、フロリダ州キャンプ・ブランディングの米国陸軍の訓練所にて17週間の訓練を受けた。そこからさらにミシシッピ州キャンプ・シェルビーにて、第442連隊（RCT）の補充兵となる訓練を受けフランスで壮絶なる「失われた大隊救出作戦」を終えたばかりの442連隊の第100大隊A中退に加わった。

その後、ミヤダ氏の属した部隊はフランス・イタリア国境の警備にあたり、1945年3月にはマーク・クラーク統合長の指示によりゴシック戦線の奪還につき、短期間でそれを成し遂げた。

終戦までの彼の南フランス、北アペニン山脈、ポー平原・ラインランドを転戦、ブロンズ・スター章、コンバット・インファントリー章、EAME 戦線章、陸軍部隊大統領表彰、フランス優秀大隊章をはじめとするさまざまな賞を受賞している。

ミヤダ氏は第100歩兵大隊の一員として442連隊戦闘団、MISと共に日系人部隊の一員として2011年ワシントンDCにて議会名誉黄金勲章を受章した。

1946年の名誉除隊後、復員軍人援護法の支援により、UCLAに進学し、1949年に卒業、ミシガン州立大学にて化学の博士号を取得した後、臨床化学の仕事に従事、1991年にカリフォルニア州立アーバイン校病理学部門の準教授として勤務した。

ミヤダ氏はオレンジ郡仏教会の会員、また引退後はサバーバン・ブエナパーク・オプティミスト・クラブの理事として活躍、また、退役軍人外地戦線ポスト3670のメンバーとして活躍、趣味はゴルフ、旅行、ランのシンビジウム栽培を趣味とし、妻のセツ子さんとウェストミンスターに住み、4人の子供がいる。

ロイ・ムラオカ氏

ロイ・ムラオカ氏は父サブロー氏、母ハルコさんのもと、1930年2月23日にサンディエゴ、チューラヴィスタのストロベリー、トマト、きゅうり、セロリなどの農場の次男として生まれた。

しかし、1942年の executive order 9066号により、キャンプを転々としたあげく、テキサス州クリスタル・シティーに収容された。後で知ることになったが、後の妻、アイコさんと同じ収容所であった。終戦後ムラオカ一家はチューラヴィスタに戻り、ムラオカ氏は1950年にチューラヴィスタ高校を卒業、1951年に米国陸軍に徴兵され、医療技術者として日本にも駐留することとなる。

除隊後再びチューラヴィスタに戻り家業の農業を手伝い、1960年にアキコさんと結婚、長男タッド、次男ケンが生まれ、父サブロー氏と共同でムラオカ・エンタープライズ社も発足、チューラヴィスタ最大のモービル・ホーム開発、パレス・ガーデンズの開発に着手した。

1983年、父サブロー氏の逝去後もムラオカ・エンタープライズ社は多岐の事業へも発展し、ムラオカ氏は日系人社会のリーダーとして活躍を続けている。

一方、ムラオカ氏は1946年からサンディエゴ・ブディスト・テンプルのアダルト・ブディスト・アソシエーションの会長となり、1973年には日系米人の外地戦線退役軍人の会の創設者である。そこに施設を確保し、生け花、詩吟、マツマエ会；剣道などの場所となった。過去20年以上にわたり外地戦線退役軍人（VFW）の会のチキン・ディナー、ビンゴなど、毎月日系アメリカ人の集会場所になっている。なお、ムラオカ氏はVFGのポスト・コマンダーとして1980年に任命された。

ムラオカ氏はオレンジ・カウンティの日系コーディネーティング・カンシルの会長を五年間勤め、秘書役としては10年以上奉仕した。また、その他ではチューラヴィスタ市と小田原市の姉妹都市提携（1981年）、バルボア・パークの日米友好庭園、ムラオカ氏は当庭園の3期に及ぶ拡張を行い、彼のテリヤキ・チキン、焼きそば・ファンドレイズは有名、重要な資金集めになっている。また、日本語学校が強制立ち退きを受けた際にはムラオカ氏及び関係者が協力して「日本語学校跡地」として歴史的重要性を訴えるモニュメントも設置したり、シニアの為のキク・ガーデンの創設等々の多大なる功績が認められ、2008年には日本国からの受勲ロイさんの存在、そして彼の功績は後に続くコミュニティーメンバーへの大きな軌跡として輝く続けている。

田中（宗優）百合子氏

田中（宗優）百合子氏は宮城県生まれ、仙台市の明和女子学院短大で、色々な学科と共に茶の湯、生け花、料理、裁縫なども習得し、1957年フレッド・キヨシ田中氏との結婚を機にベ渡米した。1972年には米国市民権を取得し、御子息トーマス氏、娘カレンさんと5人の孫がいる。

渡米後も百合子氏はロスアンゼルス表千家の創始者宗和ひとみさんに師事し、茶の湯の取得に勤め講師資格を取得、1973年にはオレンジ郡をベースに自宅での後進の指導をはじめ、優和会を発足、1988年には日本にても表千家の最高位の正教授の資格を授与された。その間45年の間に表千家同門会として、多くの後進の指導にあたった。

二世週祭、オレンジ郡仏教会花祭りバザー、オレンジ郡文化祭、OCCJAA カルカー。フェア、ロスアンゼルス仏教連合会花祭り、アニメ EXPO 等、多くの機会にお弟子さんと共に参加し、茶の湯のデモンストレーションを行っている他、小学校から各種大学までへも出向き茶の湯の普及に貢献している。

表千家同門会南加支部のメンバーとして創設当初から常に役員としての各種大役を務め、歴代の会長を長年サポートし、創立25周年記念イベントも中心になって活躍、当地での2011

年にはウーマン・オブ・ザ・イヤー賞、2015年には日本の外務大臣から戦後70年を記念し日米友好に務めたとしての特別表彰他、日本からも各種表彰を受けている。

過去30年にわたり、当地のジャパニーズ・ウーマンズ・アソシエーションの要職にて組織への貢献をかさね、特に高齢者への支援にも努めた。

田中宗優さんは1970年からオレンジ郡仏教会、及び同会ウーマンズ・アソシエーションの会員1979年、1980年の二期にわたり会長を務めた。また、同会のイベント、花祭りにもボランティアとして活躍、茶の湯のデモンストレーション、五年毎に日系文化祭にも奉仕している。オレンジ郡日系人協会の会員でもあり、2009年にはコミュニティー・サービス・アワードを長年の日系社会への奉仕、貢献により受賞した。

田中（宗優）百合子氏の目指すのは日本の文化が世界に茶の湯など様々な伝統的文化を通して、幅広い理解とハーモニーのきずなを深めることである。

オードレイ・ヤマガタ・ノジ氏

オードレイ・ヤマガタ・ノジ氏の父ジョージ・カズオ氏、母マエ・マツコさんの娘としてロングビーチにて生まれた。自営のガーデナーヤマガタ・ノジ氏の父親は、ハーバー・ジャパニーズ・クレジット・ユニオンのCEOとして20年間勤務、父方の祖父はロングビーチ日本語学校の創立協力者の一人である。

ヤマガタ・ノジ氏はロングビーチ・ポーリ高校を卒業、カルステート・ロングビーチ大をカウンセリング分野の修士課程を卒業、クレアモン・グラジュエート大で教育分野での博士課程取得、その論文「日系米人大学生の教育分野での貢献」は、他の研究者の研究にも多く使用されている。彼女の論文はファイ・デルタ・カップより年間最優秀論文の賞を受け、ハウサム・フィスト上級教育賞も授与された。

彼女はロングビーチ・ポーリ高校のカウンセラー助手としてキャリアを始め、同校のアジアカラブのアドバイザー、年少犯罪者、被害者へのファミリー・カウンセリング、警察への協力など、さらに上級生を対象にロングビーチ・シティー・カレッジ、サドルバック・カレッジのカウンセラーを務めた。さらにサドルバック・カレッジではEOPS Program（機会拡大プログラム）のディレクターも勤め、州政府上院歳入委員会のインターンとなった。

ヤマガタ・ノジ氏はサンタ・アナ・カレッジの学生支援のディーン助手になり、その後ディーンになり、総括的な学生へのアウトリーチ・プログラム、低所得者層へのリーチ・アウト、移民コミュニティ内の新移民学生への招聘を行い成果をあげた。その後、彼女はマウント・サンアントニオ・カレッジの学生支援部のバイス・プレジデントとなり、ヤマガタ・ノジ氏は各種の創造的で成功確実のプログラムをつくり、例えば連邦政府資金によるAANAPISI グラント・プログラムによりAsian and Pacific Islanderのアメリカ人学生の支援をおこなった。

6期（合計25年）に渡り、ヤマガタ・ノジ氏はサンタ・アナ学区の会長、副会長に選出され、教育委員会のスタッフとして働いた。そして、ラティーノ、アジア系学生への教育分野での成功をめざし、各種の議案、提案が考案され、ヤマガタ・ノジ氏はカリフォルニア州の教育委員会の上級理事に就任。現在でも彼女が創設者であるアジア・パシフィック・アメリカン高等教育の現会長を務め、上級教育におけるリーダー

シップ力の開発をめざし、共同ファシリテーターとしてもアジア・パシフィック系学生のリーダーシップ教育団体（LEAP）でカレッジ、大学内での支援をおこなった。

彼女の活躍はアジア・パシフィック系アメリカ人コミュニティーに焦点をあて、サンタ・アナ市の同様のアドバイザー・コミティーからロングビーチ日系アメリカン文化コミュニティーセンターの理事としての活躍等大変幅が広い。

ヤマガタ・ノジ氏は各種の表彰を受けており、その主なものとしてカリフォルニア州立大学からシンシアSジョンソン・アワード、ロングビーチカレッジ教育、高等教育の学生部、NASPA VI地区からバイス・プレシデント、ディーンに送られるスコット・グッドナイト賞、カリフォルニア・コミュニティー・カレッジからはジョンWライス・ダイバーシティ・イクイティ賞、そしてカリフォルニア州立ロングビーチ校からは卒業生協会から年間最優秀卒業生の表彰を受けている。

彼女は引退した教職者でフットボール・コーチのジーン・ノジ氏と結婚、子息ランドル氏もやはりカリフォルニア州立ロングビーチ校の卒業生である。